



発行所 (株)全国信用組合新聞社
本社 〒104-0032 (電) (03) 3552-4131
東京都中央区八丁堀4-10-8
第3SSビル701号室
ファクシミリ (03) 3555-2078
振替口座 00190-2-64636
E-mail: XLX07665@nifty.com
©全国信用組合新聞社 2018

「まんぷく」に信組登場

NHKの
テレビ小説
1月7日、14日の二週

NHKの連続テレビ小説「まんぷく」は、フィクションを交えた大阪商人・立花萬平(長谷川博己)と福子(安藤サクラ)が歩んだ波瀾万丈のストーリーが展開する。

安藤百福(日清食品創業者)と妻・仁子の半生をモデル

用組合」の理事長を務めているが、「まんぷく」では架空の「池田信用組合」として登場。萬平が地域の商工関係者から請われて大阪の地域信組理事長に就任し、教授の寄稿を掲載した。

3面に「まんぷく」の信用組合考証を担当した青山学院大学経済学部・落合功教授の寄稿を掲載した。

落合青山学院大教授の寄稿・3面に

中小・零細企業の事業を自力きして融資したり、疲弊した組合員を私財で救済しようと東奔西走する姿が描かれるという。

ドラマ制作にあたっては全信組連をはじめ第一勧業、中ノ郷、東、のぞみの各信組が当時の写真・資料を提供して協力。七日と十四日にはオープニングのタイトルロールに信組業界を代表して全信組連がクレジットされる。

寄稿 NHKドラマ「まんぷく」の舞台に信用組合

中小企業支えた理事長を描く

落合功・青山学院大学教授



(上面参照) 20%台の高 続テレビ小説「まんぷく」。視聴率を維持するNHK連 日清食品の創業者・安藤百



福と、彼の再起を終生支え、マの信用組合部門の考証を続けた妻、仁子をモデルに描かれた物語は、年明けからいよいよ百福が経営に移った信用組合に舞台を移す。銀行とは違う、人を見て融資する「しんぐみ」の姿が描かれるという。ドラマでも好評だ。この話はイン

NHKの連続テレビ小説「朝ドラ」『まんぷく』がと

※

スタントラーメンを開発した夫婦の物語である。ドラマでは発明家の立花萬平(長谷川博己)とその妻福子(安藤サクラ)の物語として描かれている。

開発者は、実在の人物で日清食品の創業者安藤百福のことである。この安藤百福とその妻仁子の生涯をフィクションドラマとして再構成したものとなっている。

実は安藤百福はカップヌードルを開発する直前に信用組合の理事長を務めていた。このことは、日本経済新聞社の『私の履歴書(安藤百福)』でも紹介されている。ただ、残念ながら、その内容は「信用組合が倒産し、理事長としての社会的責任を問われた」というものである。三顧の礼で信用組合の理事長を引き受

け、当初はうまくいったものの、結局、経営が破たんする。親密な付き合いがあった都市銀行からも設定融資限度枠を超えると対応が厳しくなり、取り立てが厳しくなる。取り付け騒ぎが起き、組合の建物や敷地が差し押さえられ、自身の財産を失うことになる。さて、ドラマではどのよう

に描かれるのだろうか。事実是不明瞭なことが多いため、団体名などを改称したフィクションとして描かれている。ドラマで立花萬平が信用組合理事長を務めるのは第15週から第16週(1月7日～1月19日)にかけてである。

『私の履歴書』によれば、『この信用組合は金融業務の専門家がない素人集団だった。貸し方がルーズだったこともあり、あちこち

で不良債権が発生した』と回顧しているが、「金融業務の専門家がいらない」ということは、担保重視の発想ではなく、中小企業の立場に寄り添う気持ちがある人々だったともいうことができる。

当時の日本経済は政府の政策も銀行の融資も大企業優先であり、中小企業は資金不足で苦しんでいた。そんな中、信用組合は戦後の役割を果たしてきた。こうした中小企業が高度経済成長期に飛躍し、オンリーワ

ン企業へと成長していく。ドラマでは、立花萬平という人物を通じて、当時の信用組合は、どのような思いで金融弱者に対する活動していたかを描いている。

「信用組合の社会的な役割は何なのだろう」ということに気づかされる。撮影現場にも顔を出させてもらった。緊張の中でも熱気あふれる雰囲気であった。立花萬平信用組合理事長は生真面目な、それでいながら心優しい理事長という印象を受けた。

担当スタッフから「萬平の姿を通じて地域に根ざし、中小・小規模企業や、地域の人々を支え続けてきた信用組合の皆様への思いが少しでも表現できればと取り組んでおります」と、コメントをいただいている。

是非、信用組合のみならず、組合員のみならず、そしてその家族の方々にも是非見て欲しい。

(青山学院大学教授 信用組合考証担当 落合功) 写真提供 NHK大阪

信用組合の社会的な役割は何なのだろう」ということに気づかされる。撮影現場にも顔を出させてもらった。緊張の中でも熱気あふれる雰囲気であった。立花萬平信用組合理事長は生真面目な、それでいながら心優しい理事長という印象を受けた。

担当スタッフから「萬平の姿を通じて地域に根ざし、中小・小規模企業や、地域の人々を支え続けてきた信用組合の皆様への思いが少しでも表現できればと取り組んでおります」と、コメントをいただいている。

是非、信用組合のみならず、組合員のみならず、そしてその家族の方々にも是非見て欲しい。

(青山学院大学教授 信用組合考証担当 落合功) 写真提供 NHK大阪